2024 年度事業計画書

2-1 芳香族製品及びタール製品の市場調査に関する事業

2-1-1 芳香族製品

(1) 芳香族製品の生産等に関する統計調査並びにデータ開示

昨年同様、以下の統計調査を行い公表する。

・「芳香族製品生産出荷統計月報」
・「芳香族製品輸出入統計」
・「芳香族製品並びに誘導品に関する統計(年報)」

(2) 芳香族製品(海外動向)に関する講演会の開催

・会員相互の情報の共有と、市場動向に関する理解向上を図る。
・アロマ動向に関する講演会を年 4 回程度行う。講師については従前同様、商社に依頼する。

(3) 需要見通し作成と公表

今後 5 年間の BTX 需要見通し作成とその内容の公表を行う(2025 年 3 月頃実施)。

(4) その他

関係諸機関等へのデータ開示と作業協力を行う。

・ 経済産業省向け改質生成油(ナフサ)の需要見通し(2025 年 2 月)
・ 石油化学工業協会向けアジア石化会議用の需要実績の纏めと需要見通し(2025 年 3 月)
・ 日本エネルギー学会誌へのエネルギー特集記事の執筆協力(2024 年 5 月)

2-1-2 タール製品

以下の定例業務について事務局にて実施する。個別発生案件等計画外事項については、必要に応じて関係会員協議のうえ対応する。

(1) タール製品の生産等に関する統計調査並びにデータ開示

例年同様、以下の統計調査を行い公表する。

・「タール製品生産出荷統計月報」
・「タール製品輸出入統計」

(2) その他

関係諸機関へのデータ提供

2-2 芳香族工業及びタール工業の技術の向上に関する事業

(1) 第 58 回日本芳香族工業会大会の開催

期日　　2024 年 10 月 9 日～11 日予定
場所　　福井県福井市(ハイブリッド方式での開催を予定)

・ コロナ禍以前と同様のイベント(テーマ討論会、講演会、技術・研究発表会、懇親会及び工場見学会)の実施を前提とし、講演会及び技術・研究発表会については、多数の人が聴講できるよう、WEB 配信も行う予定。
・ 若手技術者等の貴重な経験の場として、大会の継続的な実施を図る。

(2) 技術委員会、テーマ講演会及び外部講演会等の開催

・ 定例技術委員会は年 6 回開催し、テーマ講演は 5 件で計画する。また、外部講演会等の実施についても検討を行う。
・ テーマ講演、外部講演会の聴講者は技術委員会メンバーに限定せず、内容及び状況に応じて、技術委員、環境安全委員等を通じて会員各社へ参加者の募集を行う。

(3) 技術ミッションの派遣

・ 2007 年から会員各社の製造･操業部門及び企画･技術部門の若手および中堅エンジニアを対象に成長･発展著しいアジア化学産業の最新状況の視察(工場見学)と技術交流を目的とする技術ミッション派遣を実施している。
・ 本年度は 11 月にタイの訪問を計画している。

2-3 工業標準化に関する事業

当工業会が原案作成団体となっている JIS の K2435(ベンゼン、トルエン、キシレン)、K2438(ピリジン類)及び K2425(クレオソート油、加工タール及びタールピッチ試験方法)について、日本規格協会の公募制度を利用して改定を実施する。

2-4 芳香族工業及びタール工業の環境・保安・製品安全に関する事業

(1) 環境安全委員会の充実

・ 定例環境安全委員会を 4 回開催し､会員各社の情報交換の場として活用を図っていく。テーマ講演は 3 回を予定し、各社が対応を急ぐ緊急テーマ､興味･関心の高いテーマを中心に計画する。情報交流会(討論会)は、各社の関心の高い案件について実施する。外部講演会等も状況に応じて企画する。
・ 環境行政に係る情報及びそれに対する化学業界の対応等をタイムリーに入手し､委員会での迅速・適切な対応を取る。

(2) 法規制等への対応

国内の改正労安法対応や、改正特化則対応、化審法による優先化学物質のリスク評価関連の情報などを関連業界団体との連携を中心に収集し、対応する。

(3) 安全･防災への取組み

化学会社及び周辺関係会社における事故･災害多発の状況において、安全･防災問題への意識を高め､無事故･無災害に向けた活動を更に強化していく。

(4) SDS の維持管理

・ SDS 小委員会を適宜開催し､国内外の規制/基準･法制化等の動向等について情報交換、意見交換を行う。
・ モデル SDS12 製品について改定を行う。

2-5 芳香族工業及びタール工業の広報宣伝に関する事業

ホームページと機関誌「アロマティックス」の両媒体を活用し、以下の方針をもって広報宣伝活動を展開する。具体的展開は、広報委員会において逐次検討していく。

(1) ホームページの活用

・ 見やすさ、親しみやすさ、わかりやすさなどの改善に引き続き努め、会員のみならず一般の閲覧者への広報宣伝活動を展開する。
・ 各種統計データ開示の迅速化、各種統計データの DB 化により閲覧者の利便性向上を図る。

(2) 機関誌「アロマティックス」の充実

機関誌は専門技術情報誌であり、1949 年 1 月発刊より読者から長年愛読され、社会に認知されている。引続き専門性に加え、更に一般の読者層にも親しみを持たれるような情報誌を目指す。本年度からは連載企画「出没‼広報委員が行く‼」に代わり、生活に密着したモノに活用されているアロマ製品をわかりやすく紹介する「アロマ探検隊」続編をスタートする。